

今週のビルマのニュース 2008年10月3日号【0830号】

今週の主なニュース：サフラン革命から1年

・僧侶を中心とした大規模デモへの武力弾圧から1年がたった27日、アラカン州シットウエでは僧侶約150人が静かにデモ行進をした。

・27日は国民民主連盟(NLD)の結成20周年記念日でもあり、ラングーンのNLD本部では記念行事が開かれた。行事に参加しようとしていた党员9人が逮捕されたが全員解放された(30日付DVBほか)。

・マグウェ管区イエナンジャウン郡で30日、当局が同郡の国民民主連盟(NLD)支部部員を呼び出し、NLD結成20周年記念行事(27日)の際に軍政のことを「独裁政権」と言い表すなどしたことについて警告した(1日付DVB)。

・昨年のデモへの関与を理由に収容されているガンピラ師(全ビルマ僧侶連盟)など民主化活動家数人の代理人を務めるアウンテイン弁護士が、辞任したいとの意向を表明した。裁判に備える時間を十分与えられない上、裁判では検察側しか被告に尋問できず弁護士による尋問が許されないなど、不当な扱いを受けていることを理由とした(2日付DVB)。

その他：サイクロン被害見学ツアー、ほか

・イギリス外務省は保険市場ロイズのレビーン会長に書簡を出し、ロイズがビルマ軍政と取引があることについて懸念を表明した。これを受けてロイズは全会員に対し、軍政との取引を見直すよう求める書簡を出した(29日付ガーディアンほか)。

・国際NGOトランスペアレンシー・インターナショナルは2008年腐敗認識指数を発表した。ビルマは180か国中178位タイで、実質上のワースト2位。

・ビルマ当局は、5月のサイクロン襲来で大きな被害が出たイラワジ管区のヌウエサウン・ビーチで空港の建設を始めた。観光客を呼び込むのが目的とのこと(2日付AFPほか)。また、東南アジアの大手旅行代理店エキゾティッシュモはサイクロンによる被害の様子を現地に見に行くツアーを10月に開始するという(29日付イラワディ誌)。

・軍政は中国企業と共同でカチン州のターペイン川で複数の水力発電ダムの建設を進めている。建設現場周辺を支配している停戦団体のカチン独立機構(KIO)は開発に反対。9月に中国側がKIOに納税しなかったことから緊張が高まり、KIOは建設現場に

2つの大隊を送り込んだ。中国人作業員が逃げ、建設が一時中断した(1日付イラワディ誌)。

ビルマへの政府開発援助(ODA)約束状況など

新たな発表はなし

イベントなど

・長井健司さん殺害の真相究明を求める署名キャンペーン 呼びかけ：在日ビルマ人共同行動実行委員会・ビルマ市民フォーラム(19日まで)

・AMDA ミャンマー駐在代表帰国報告会「finds MINDS - AMDA 社会開発機構を知る・世界の今を知る」～サイクロン緊急救援活動と社会開発事業の経験から(岡山市ゆうあいセンター、3日19時～)

・早稲田大学アジア研究機構第4回国際シンポジウム「東南アジアの紛争と平和」(大隈記念講堂、10日10時～、14時から根本敬・上智大学教授による講演「ビルマ民主化に展望はあるのか?」)

・ブリッジ・エーシア・ジャパン「ミャンマー・ラカイン州北部事業報告会」(JICA地球ひろば3F、10日18時半～)

・講演会「ビルマは今」ココラット氏(ビルマ民主化支援会)アムネ스티岐阜グループ主催(岐阜ハートフルスクエアG、12日13時半～)

サイクロン被災者救援チャリティ・コンサート
出演：沢知恵・いとうせいこう・根本敬、ビルマ市民フォーラム主催(星陵会館、17日18時半～)
チケット発売中!

特定非営利活動法人メコン・ウォッチの季刊誌「フォーラム Mekong」、最新号はビルマ特集。

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース(平日毎日更新)
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo/>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org/>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165